

平成28年度 第3回社会福祉審議会 要旨

日 時 平成29年1月18日(水) 午後1時30分～3時

場 所 教育センター4階大研修室

出席者

構成員 前田会長、和泉副会長、田中隆次委員、田中清子委員、西田委員、黒田委員、横尾委員、小林委員、植田委員、谷郷委員、瀬戸委員、伊東委員、(順不同)

幹 事 危機管理課、市民協働課、交通政策課、健康増進課、障害福祉課、介護保険課
営業課、子育て支援課 (所属長及び代理出席者)

参考人 (株)名豊 CPL課長(コンサル会社)

事務局 福祉課長、福祉課副課長

委員15名中 12名出席により会は成立

傍聴人の数：0名

1 開会

2 あいさつ

(会長)

- ・皆さん、こんにちは。先週末には、三木市としては、かなり雪が降りましたが、関西国際大学でセンター試験があり、私は従事していました。本日は、お寒い中のご出席、誠にありがとうございます。
- ・昨年の10月13日に第2回目の審議会が開催され、第3期地域福祉計画の策定のための、第2期地域福祉計画で立てた事業計画の検証と評価を行い、第3期で新たに行われる事業についてのご意見をいただきました。
- ・本日は、さらに、市民2,000名に対して行いました福祉に関する市民アンケートの結果や各地区の民生委員児童委員協議会、老人会の役員さんとの懇談会の結果を参考にして作成された第3期の計画素案のご説明があるとお聞きしています。
- ・皆様の貴重なご意見とご協力を賜りますようお願いしまして、ご挨拶とさせていただきます。

(福祉課長)

- ・本日は、健康福祉部長が市長との予算協議のため欠席しております。健康福祉部の予算協議が終了次第、本会議に駆けつけることになっておりますので、ご了承願います。

3 はじめに

(事務局)

- ・本会議は15名の委員定数ですが、本日は3名欠席で、出席12人となっており、本会議は成立しています。本日傍聴者は、いません。来られた場合は、入っていただきます。それでは会長お願いします。

4 審議事項

(1)「市民アンケートの集計結果」について

(会長) 事務局説明をお願いします。

(事務局説明)

- ・前回の審議会でご説明しました、市民18才以上の方を無作為に抽出してアンケート調査を実施しました。
- ・当初の予定から遅れ、10月18日に発送しました。アンケートの締め切りは、2週間見込みまして10月31日に設定しました。
- ・締切直前の10月28日にアンケートの御礼と督促の意味を含めて対象者2,000名に葉書を送付しました。
- ・締切の翌日の11月1日現在で965件の回収ができましたが、その後もほぼ毎日、数件から数十件の返信がありました。せっかく市民の皆様からご回答いただいた意見を反映するため、11月24日までの到着分をアンケートとして集計することとしました。そのため、集計と分析が遅れることとなり、計画案への遅れもあり、当初12月19日に開催予定していた審議会を延期させていただく事になりました。つつしんで、お詫び申し上げます。
- ・最終1,053件のご回答をいただき、目標の過半数を超えました。市民の福祉への関心も低くないと感じています。
- ・特筆すべき数値として、今回のアンケート対象では、持家の一戸建てに住んでいる方が88.1%と高く、持家の集合住宅を合わせると90%を超えます。
- ・近所づきあいには、居住期間が5年以上の場合、何らかのお付き合いの割合の高いのが分かります。5年たてば、お付き合いの度合いが高くなりますので、努力すれば、もっと早くお付き合いの度合いが高くなると思われれます。
- ・健康に関しては40歳代以上の方が、介護に関しては、親が高齢者となる50～60歳代の方が、子育てや子どもの安全に関しては、30～40歳代の方の関心が高くなっています。健康に関しては、すべての地区で関心が高くなっており、健康については、地域性が無いという事が伺えます。
- ・ボランティア活動の問いでは、経験も含めて、ボランティアに興味を持たれている方が、56.7%しかありません。この値をどうすれば、もっと高められるかが計画の重要なポイントになると思います。
- ・ボランティア活動に参加したいと思わない方は、時間的な余裕がない、体調不調を

- 挙げられていますし、ボランティア活動に参加することで支障となるのは、仕事を持っていて時間が無い、健康や体力に自信がないと答えられています。
- ・民生委員・児童委員の役割については、半数程度しか知っていないとの回答になっており、若い人ほど知らない割合が多くなっています。ちなみに、予想外の結果だったため、インターネットで調べたところ、小学校の社会科でも中学校の社会科でも「民生委員・児童委員」という言葉は、出てこないとの記述がありました。
 - ・風水害や地震などの災害において、75歳以上の方は、自分で避難できる方が、半数程度になっています。誰かの声掛けがあれば、さらに20%の方が、避難することができます。100人いた場合、声掛けさえすれば、70人は、避難できるという事になります。安否確認と声掛けすることで20名の方が避難できることとなります。
 - ・地域の防災訓練でも、57%の方が、災害時要援護者の自宅訪問し安否確認する訓練が、最重要と思われており、車椅子利用の方などの移動を支援する訓練を第二に思われています。
 - ・年齢別の表では、若い20、30、40代の方は、体力の生かせる「車椅子などの方などの移動を支援する訓練」を考えておられ、40、50、60代の方々は、高齢の両親を想定されて「災害時要援護者の自宅訪問し安否確認する訓練」を思われており、60歳以上の方は、援助してもらおう立場で、「災害時要援護者の自宅訪問し安否確認する訓練」を思われているようです。
 - ・地域の暮らしやすさについては、83.3%の人がどの世代においても「暮らしやすい」と感じておられます。居住期間が1年を経過すれば80%以上の方が「暮らしやすい」と思われています。三木市は、暮らしやすいまちであり、努力すれば、もっともっと暮らしやすいまちになると思われています。
 - ・「どのような住民同士の助け合い活動が必要だと考えますか」、「声かけやあいさつ」「見守り・安否確認」「災害時の避難誘導・助け合い」と続いています。「声かけやあいさつ」は、労力もなく簡単なことです、そこからネットワークが生まれてきて、状況に応じて「見守り・安否確認」「災害時の避難誘導・助け合い」にも通じるものがあると思います。近所での「声かけやあいさつ」は、ネットワーク作りの第一歩と思われています。
 - ・このように、アンケートから様々なことが推測できます。地域福祉のためには、コミュニケーションやネットワークづくりの必要性、困った時の相談相手やあてになる人が身近にいることの大切さが理解できます。
 - ・以上、アンケート調査でポイントと思われる部分だけ、説明させていただきました。

(会長)

- ・この件に関しまして、ご意見ご質問等ありますか。

(委員)

- ・説明の中で、他市のアンケート回答率の説明がありましたが、大切なのは本市との比較が大切ではないでしょうか。前回の計画を立てるにあたってのアンケート結果

との対比が重要では、ないのでしょうか。そこは、いかがでしょうか。

(事務局回答)

- ・今回、アンケートを実施したのは、初めての試みでした。第1期、第2期ともアンケート調査を実施していません。他の自治体では、継続的にアンケートを実施しており、前回調査と今回調査の結果を一つのグラフで対比している自治体がありました。とても比較しやすいグラフになっており、今後は三木市でも取り入れたいと考えます。市民の意識調査を比較するうえで大切と考えます。

(会長)

- ・今回、アンケートの回収率を上げるため、先ほども説明がありましたが、対象者に再度葉書を送付されて、事務局も努力をされているようです。
- ・ほかに質問があればお願いします。

(委員)

- ・アンケート結果での障害者手帳・精神障害者保健福祉手帳を持っておられる方が少ないように思われますが、どうですか。

(事務局回答)

- ・アンケートを実施するにあたって、アンケート対象者の方に各種手帳を持っておられる方がどれぐらいおられるかをお示しするために項目を設けました。アンケートの結果という事でご理解をお願いします。

(委員)

- ・アンケートを実施する際に福祉サービスを受けているかどうかの項目を設定して下さい。

(事務局回答)

- ・今後の課題として、検討させていただきます。

(2) 第3期地域福祉計画の素案について

(会長)

- ・続いて「第3期地域福祉計画の素案」について事務局の説明を求めます。
説明終了後に先ほどのアンケートを含めて、ご意見・ご質問をしていただけたらと思います。

(事務局説明)

《計画案に基づいて、補足説明》

(会長)

- ・現状から計画まで説明がありました。事前に資料の配布があり、私は目を通しておりましたが、説明があつて再度理解が深まったようです。各分野の担当部局の方も出席されていますので、ご意見・ご質問があれば、お願いします。
- ・前回の審議会で要望があつた部分もありますので各項目についてもお願いします。

(委員)

- ・三木市の現状で保育所の待機児童数について教えてください。三木市は、数が少ないとお聞きしています。学童保育についてもお願いします。

(事務局回答)

- ・一昨年の数ですが、待機児童ではないですが、入りたくても入れない子どもの人数が1,900名でしたが、順次施設の数や先生の数を増やしたりして幼保一体化の計画も変更しています。
- ・三木中学校・別所中学校・三木東中学校校区において、0歳から2歳までの子どもが入れない現状がありましたので、平成29年4月に向けまして小規模(19人まで)の施設を作るようにして、ほとんど施設に入れるように進めています。
- ・三樹幼稚園でも受け入れ時間を延長するなど、どこかの施設に入れるように進めています。実数につきましては、今、手元に資料がありません。

(会長)

- ・同じく待機の学童数については、いかがですか。

(事務局回答)

- ・学童保育については、待機がでているとは聞いていません。

(委員)

- ・何年生まででしょうか。他市では、小学3年生までと聞いていますが。

(事務局回答)

- ・子育て支援法ができて、小学校3年生までしか入れなかったのですが、三木市の場合、平成28年度から小学6年生まで受け入れをしています。

(委員)

- ・三木市の場合、高齢化率が全国平均よりも高いですが、今後の居宅介護以外の施設づくりの計画について教えてください。

(幹事回答)

- ・介護保険課は、地域福祉計画に基づき、高齢者福祉計画と介護保険事業計画を3年ごとに策定しています。その中で、必要な数を検討しています。その中でしっかりと検証していったら、必要な施設の整備を図る予定です。

(委員)

- ・人口が減少するなか、精神障害者福祉手帳の所持者の増加について、事務局は制度利用する方が多くなったためと説明されましたが、精神病になる方も増えたのではないかと思いますか。

(幹事回答)

- ・精神障がいにも様々な症状があります。最近、新しい病名もつけられており、障がいの種類も多様化していますので、それに起因するものもあります。また、障がい者へのサービスの種類も増えました。三木市や近隣市の施設も増え、これらの施設を利用するためにも、手帳を取得されています。また、精神障がいや、その制度について多くの人に認知されているのも一因と考えています。良い方向に向かっていっていると思っています。

(委員)

- ・高齢者は増加していますが、老人クラブの人数構成が逆ピラミッド型になって、会員数も減少しています。若い人は役員になりたくないの加入が少ないようです。
- ・私も「町づくりビジョン委員会」に入会していて、高齢者を支えるにはどうすれば良いかについては、計画にありますように地域の様々な組織が検討し合って、まちづくりをしていかななくてはならないのは理解できます。
- ・民生委員のことも書かれていますが、地域内の要援護者把握と情報の共有、ネットワーク会議を実施するとありますが、改選後でもありますし行政と連携し、実施していただきたい。
- ・基本計画の「自助・互助・共助・公助」の図にあるように、行政は、もっと福祉の分野に力を注いでいただきたい。
- ・高齢者の交通事故についての高齢者の免許返納については、都会では公共交通機関が整備されていて返納率も高いと思われませんが、三木では、都会ほど公共交通機関が整備されていないので、交通の足として自動車は無くてもならないと思われれます。免許返納に至る前に交通機関の整備をお願いしたいと思います。

(幹事回答)

- ・福祉課では、免許を返納された高齢者の方に毎年1万円相当のバス券等を配布して援助しています。さらに充実したいと思っています。昨年度は、申請者が600名程度だったのですが今年度は、既に700名を超えています。

(幹事回答)

- ・交通政策課では、平成29年度に交通網の計画を作っていく予定になっています。各地域に合った、きめ細やかな交通手段を考えていきたいと思っています。その際には、地域ごとのご意見を伺ってニーズに合った計画を作っていくと思っていますので、よろしくお願ひします。

4 その他

(1)「生涯活躍のまち構想」(地域再生計画)について

(会長)

- ・「生涯活躍のまち構想」(地域再生計画)について、事務局の説明を求めます。

(事務局説明)

- ・本来は、第3期地域福祉計画の中で謳うべきものでありましたが、「生涯活躍のまち構想」(地域再生計画)について、昨年8月に内閣総理大臣から認定を受けました。第3期地域福祉計画の中にインパクト良く、盛り込みたいと思いますので担当課長から、お配りしている広報みき10月号の資料内容を参考にご説明させていただきます。

(幹事説明)

- ・営業課は、地方創生を担当しています。「生涯活躍のまち構想」というのは、大都市を中心とする中高年者、リタイヤする前のまだまだ元気な方に地方への移住をしていただき、その移り住んだ先々で活躍していただくと共に、そのような方々に移り住んでいただける環境整備をするのが国の構想です。
- ・三木市でも、「生涯活躍のまち構想」としては、オールドニュータウン化している緑が丘地区の高齢化の問題を含めまして、中高年齢者だけの移住だけではなく、元気な若者も移住をふくめ、若者の流出を抑制しながら、多世代が交流できる形で共に地域社会で活躍できる事を重視していく形で地域再生計画を作りまして、国に提出し、内閣総理大臣の認定を受けた次第です。これが、8月末の事でした。
- ・「生涯活躍のまち構想」(地域再生計画)は、多岐にわたる計画のものでして、豊かなくらし部だけではなく、健康福祉部、まちづくり部、市民ふれあい部を含めまして、各部を横断して事業を進める本部に各部長をメンバーとして設置しています。
- ・緑が丘地区に法人を設置しまして、様々な相談事業やサービス事業にとどまらず、まちづくり事業をおこない、高齢者も転入者も子育て世代の方も含めて社会に出ていきやすい環境を地域の皆さんとご相談しながら作っていきたいと思います。
- ・「生きがい創造」のサービス例や「介護・福祉」のサービス例については、広報資料に様々なサービス例を挙げています。これらのサービスを支援するとともに、ご協力いただきながら、他の団体との活動も活発にしていけないかと考えています。
- ・いっぽう、緑が丘・青山地区では、「郊外型住宅団地ライフスタイル研究会」をたちあげて、生涯にわたって元気に生活できる環境づくりやまちづくりを民間団体や地元の皆さんが集まって研究会をしておられます。こういった研究結果を含めて、緑が丘地区をモデル地区として、実行していきたいと考えています。
- ・高齢化率の高い緑が丘地区を手始めとして、将来的には、良い所は伸ばし、悪い所は改め、全市に拡げていくのが目標となっております。
- ・今回の地域福祉計画と重なる部分があり、整合性を図っていく部分があり、情報共有し、連携しながら行っていきますのでよろしくお願ひします。

(委員要望)

- ・今、説明していただいた地域再生計画は、たいへん良い計画と思いますが、三木市に元々住んでいた若い人たちが生活しづらくなって、三木市から出てしまっていますので、その若い人たちが三木市に帰ってくる状況を作っていただくことによって、三木市は、活性化するのではないかと思います。
- ・高齢化率や独居率が高くなって、高齢者だけになった世帯でも、本来は、若い人たちが住んでいたのです。その若い人たちが、生活できなくなって出てしまったのです。若い人を取り返す、そういう努力が足りないのではないかと感じられますので、考えていただけたらなと思います。

(2) 予定について

(会長)

- ・今後の予定について、事務局の説明を求めます。

(事務局説明)

- ・今後の予定についてですが、今、説明させていただいた地域再生計画を盛り込んだ、追加の計画案を早期に委員皆様にお示ししたいと考えています。2月上旬には、郵送させていただいて、皆様のご意見等を賜りたいと考えています。ただし、日程的に審議会を開催する余裕は、ありませんので文書でのご意見をいただくような形となります。どうぞ、ご了承ください。
- ・皆様のご意見や2月中旬にパブリックコメントを実施して、市民からの意見が無い場合、または、意見があっても軽微な場合につきましては、会長と副会長にご相談させていただいて、計画案を修正・決定させていただきたく思いますが、いかがでしょうか。

委員から (異議なしの声)

(会長)

- ・本日の審議会では、訂正・修正のご意見は、無かったと理解しております。

(会長)

- ・事務局から提案とお願いがありましたが、委員の皆さん、いかがでしょうか。2月にパブリックコメントを実施して、市民からの意見が無い場合や軽微な変更の場合は、私と副会長で確認させていただいてよろしいでしょうか。

(委員質問)

- ・今後、計画の内容についてお尋ねしたいことについては、どのようにさせていただいたら良いのでしょうか。

(事務局)

- ・訂正後の計画案ができましたら、すぐに送付させていただきます。その際、ご意見等をいただける様式を作って、お願いしたいと思います。書ききれないような場合は、お電話等に対応させていただきますし、来庁いただいた場合は、担当課長とお話をお伺いいたします。

(会長)

- ・よろしいでしょうか。それでは、事務局と調整しながら進めさせていただきます。大きな事案がある場合は、審議会を開催させていただきます。
- ・本日の審議事項は、終了しました。進行を事務局に代わります。

(事務局)

- ・ありがとうございました。閉会にあたり、閉会のご挨拶を副会長お願いします。

(副会長)

- ・皆様、熱心にご協議いただき、ありがとうございました。
- ・素晴らしい計画ができません、その計画が市民の皆さんに浸透しないと机上の計画で終わってしまいます。その計画をいかに自分のものにするかが、大切なことではないかと思えます。みんなが安心して住める地域が大切ではないかと思えます。これが根本だと思っています。
- ・計画を実行するためには、どうしたらよいかと思えますが、人に頼まれやすい自分になることが大切だと思えます。周りの人に声をかけることが大切と思えます。誰かのために生きる、誰かのために動く、誰かのために汗をかく、それでこそ地域の福祉力が高められます。自治会を中心として、皆さん方が自分の地域を良くするために、一人ひとりがその気にならないといけません。
- ・計画が計画倒れにならないように、皆さんで考えていただきたいと思います。
- ・今日は、どうもありがとうございました。

閉会